

2014

北海道教育大学附属札幌中学校

平成26年度 国立教育政策研究所  
教育課程研究指定校事業 研究協議会

# 研究概要説明

北海道教育大学附属札幌中学校

保健体育科 高橋 正年

takahashi.masatoshi@s.hokkyodai.ac.jp





## 研究仮説

生徒自らが「問い」を生み、「問う」ことの価値を実感する学び合いによって、「学びの主体者」となる生徒を育成することができる

「問い」

思考・判断

「問う」

■ これまでの自分の認識や経験との違いから生じた疑問のうち、解決したいと強く思うもの

■ 「問い」を解決するために他者に働きかける行為



## 【体育分野】

- 運動を合理的に実践するため、運動の技能や知識を活用するなどの思考力・判断力を育成するための指導や評価方法等の工夫改善についての研究

## 【保健分野】

- 個人生活における健康課題を把握し、その解決を目指して具体的に考え、判断し、それらを表現する力の育成を図り、「知識を活用する学習活動を取り入れる指導方法の工夫」のための具体的な指導方法等の研究



# プレゼン資料と学習案について



「問い」「学習課題」に  
関連する内容

「問い」

青の実線で標記

「問う」

緑の二重線で標記

「問う」「学び合いによる  
探究活動」に関連する  
内容

## 1 目標

「取」は、重心を左足に移す「受」の動きに応じて、体落としに必要な動き（進退動作、崩しと体さばき）を工夫することができる。

## 2 展開 (8/12)

流れ	○生徒の学習活動	・教師のかかわり
	○挨拶・準備運動・受け身 ○3人1組による協同学習 体落としの約束練習。観察者は、安全面・技の出来栄を評価し、約束練習をコントロールする。 *左足に重心がある相手に技をかけるには	・本時とのつながりを促す。 ・体落としの技の行い方のポイントを確認。 ・これまでの約束練習の条件を変える 教師が「受」を担当し、「取」の動き（崩しと体さばき）を工夫することが出来る。
(15分)	○学習課題の共有化 【学習課題】 右足を後ろに下げる（重心を左足に移す）相手に、体落としをかける（右足に重心を移動させる）には、どのような動き（進退動作、崩しと体さばき）の工夫が必要だろうか	
	○仮説の設定 *今まで以上の強い釣り手や引き手ではどうか。 *体落としを何度もかけ続けてみようか。 *八方崩しや抑え込みの知識を活用できないか。 *相手の動きを利用できないか。	・課題解決に向け、技能的な側面と態度的な側面からの視点を整理する。
検証する (20分)	○「問うこと」の価値を実感する学び合い ○仮説の検証 相手の動きに応じた進退動作、崩しと体さばきの探究活動。協同学習で役割を交代しながら行う。 	・役割を意識することの必要性や、協同的に行うことの意義を確認する。 ・グループ内の役割が適切に行われているかを確認する。 ・「取」が技のかかけの状態になったら、「受」は抵抗せず、受け身をするよう徹底する。
確認する	○全体交流 検証の結果を交流し、動きのポイントをまとめる。 ○再検証 動きのポイントを活かし、約束練習で確かめる。	◆「受」の動き（体勢を立て直す相手の動き）に合わせて、体落としをかけることができています。
つなげる (40分)	○振り返り 体落としは自ら（取）の進退動作により、真後ろや左後ろ隅に崩し、相手（受）が体勢を立て直す動きに合わせて、体さばきを行うことが必要だ。 ○意味づけの場 ◇動く相手に対して、「取」の動きを工夫することができた。体落としだけではなく、他の技でも今後追究してみたい。	・本時の学びを振り返り、学習シートに記述するように指示する。 ・本時の学びの姿をとらえ、次時の学びの意欲を高める。
(50分)	○本時のまとめ 意味づけから自己の学びをとらえる。	

# 思考力・判断力等の育成するためには…



知識・技能を活用して  
課題を解決するために必要な

**思考力・判断力等**



知識や技能の  
活用場面の設定

課題を解決する  
場面の設定



不十分ではないだろうか



授業者の意図的な  
働きかけが必要

整理分析し、探究  
できる場面の工夫



思考力・判断力等の育成するためには…



生徒自身が課題を解決したいと強く思う  
内面的なアプローチ

他者との学び合いを通して課題を解決できる場面の設定

生徒自らが  
「問い」を生むこと

「問う」ことへの価値を  
実感する学び合い

知識・技能を活用して課題を解決し  
思考力・判断力等を高める授業



## 生徒自らが「問い」を生むこと

思考・判断を進める原動力として

生徒自身が課題を解決したいと強く思う内面的なアプローチ

- ①【体】【保】既成概念を検証する学び
- ②【体】「やりたい」のに「できない」から展開する学び
- ③【体】「条件や状況が変わる」と「できない」から展開する学び

## 「問う」ことの価値を実感する学び合い

課題を解決する手立てとして

他者との学び合いを通して課題を解決できる場面の設定

【体】【保】「問い」を解決するための自らの  
「仮説」の設定と「検証」の重視



# 保健分野



第2学年

傷害の防止「自然災害による傷害の防止」

実践例①



## 指導内容

### ■ 自然災害による傷害は、

- ① 地震発生時による家屋の倒壊や家具の落下や転倒が原因で生じること
- ② 津波や土砂崩れ、地割れや火災などによる二次災害によっても生じること

### ■ これらの傷害の防止には、

- ① 日頃から災害時の安全の確保に備えておくこと
- ② 災害情報を的確に把握する必要があること
- ③ 冷静・迅速・安全に行動すること

活用し、思考・判断する

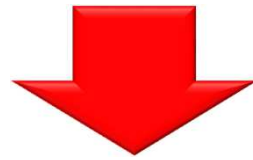
——— 前時の学習内容

===== 本時の学習内容





身に付けた知識や技能を活用して課題を解決し、  
思考力・判断力等高めるために・・・



■過去の地震による傷害の発生状況を扱い、  
地震直後や二次災害によって生じる傷害を  
整理し、科学的に検証すること

■災害の状況や周りの状況を捉えて、より正  
しく身を守る方法について行動を選択し、  
説明できるようにすること



## 本時の目標

- 前時で学んだ地震や二次災害の様々な状況と、複雑な身の周りの環境の整理から、傷害を防止するための行動や避難の方法を選択し、説明することができる。





# 【保】傷害の防止「自然災害による傷害の防止」



## ワークシート

### 指導内容

#### ■自然災害による傷害は、

- ①地震発生時による家屋の倒壊や家具の落下や転倒が原因で生じること
- ②津波や土砂崩れ、地割れや火災などによる二次災害によっても生じること

#### ■これらの傷害の防止には、

- ①日頃から災害時の安全の確保に備えておくこと
- ②災害情報を的確に把握する必要があること
- ③冷静・迅速・安全に行動すること

活用し、思考・判断する

—— 前時の学習内容

==== 本時の学習内容

P-

保健ワークシート

2年 A組 51番

氏名 澤崎 涼菜

#### 1 地震発生直後における傷害の原因と内容をまとめよう

- 食器がおちてくる → 切りきず
  - 建物がこわれる(くずれおちる) → 下じきになる...骨折
  - 津波 → 流される
  - タンスがおちる(たおれる) → 下じきになる...骨折
  - 電柱が倒れる → 頭そうつ・骨折など
  - ふきぬけからライトがあちる → 切りきず、火災  
(70ペラモ)
  - ゆれによって転ぶ → すりきず
  - 油にぶつて、やけど
  - 階段からおちる → わんて
- (建物)の倒壊  
家具の転倒  
器物の落下

#### 2 二次災害とは...?

地震に伴って起こる。  
例) 津波、土砂崩れ、地割れ、火災など。

#### 3 地震によるケガを防ぐために、日頃からどのようなことができるか。

- 調理が終わったら、ガスのを元栓をすぐにしめる。
- 食器だまにカギをつけたり、落ちないように固定する。
- あまり高い所にものを置かない。

#### 4

危ない所というのは、身の周り沢山あると分かった。実際に班で考えてみると「1階だけで」、1ヶ所もありました。また、その危ない所から逃げる方法もその場で考えて行動、というのは難しいんじゃないかと思いました。だから、今回のように事前に被害を予想して、解決の方法を考えておくのが、大それたと思いました。

# 【保】傷害の防止「自然災害による傷害の防止」



常に前時で学んだ内容を振り返ることができる工夫も必要

## 地震による傷害の原因

- ①建物の崩壊
- ②家具の転倒
- ③器物の落下

## 地震による二次災害とは

- 火災
- 土砂崩れ
- 地割れ
- 津波



# 【保】傷害の防止「自然災害による傷害の防止」



気象庁の緊急地震速報を聞き、地震発生直後を想定した行動とその根拠を交流



生徒A  
「頭を隠すことが大切  
なので、机の下に隠れ  
る」

**既成概念**

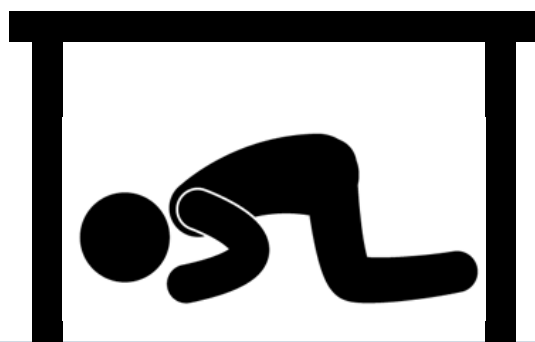
生徒B  
「避難口の確保が必要  
なので、ドアや窓を開  
ける」

既成概念を確かめ、生徒自らが「問い」を生む





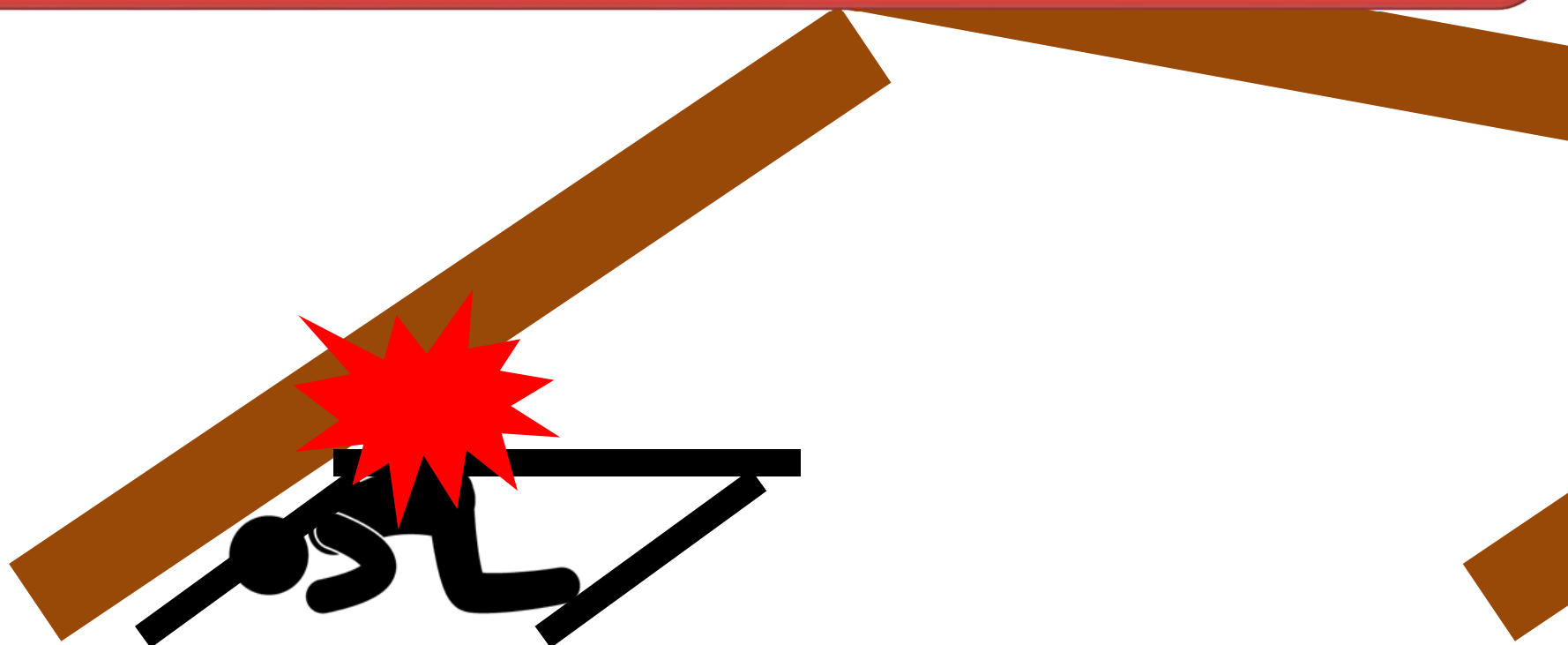
緊急地震速報です。大地震です。  
震度は6強！



# 【保】傷害の防止「自然災害による傷害の防止」



壁や天井が崩壊するほどの地震では、机やテーブルなどを支えている足を破壊してしまう。



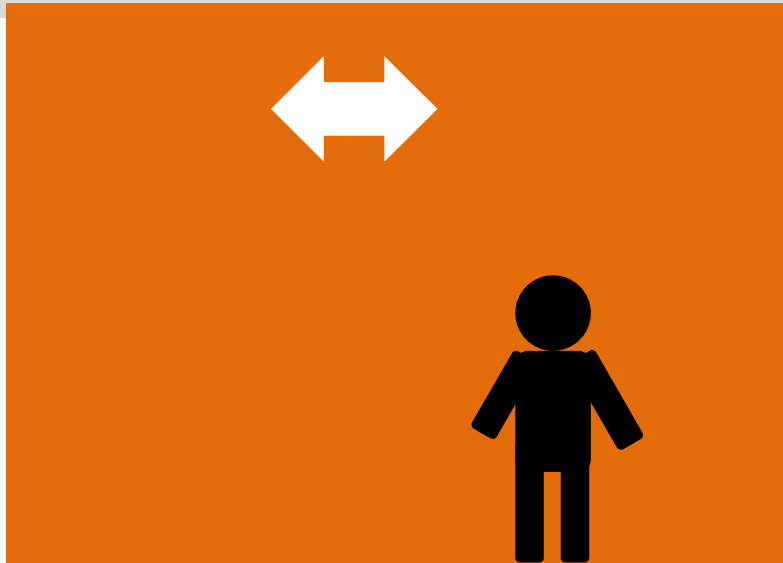
## 【保】傷害の防止「自然災害による傷害の防止」



ドアや窓がある壁は、部屋の中で最も崩れやすい  
(ドアや窓がない壁は、大きな面(壁)で天井を支えている  
ので、強度は高い)

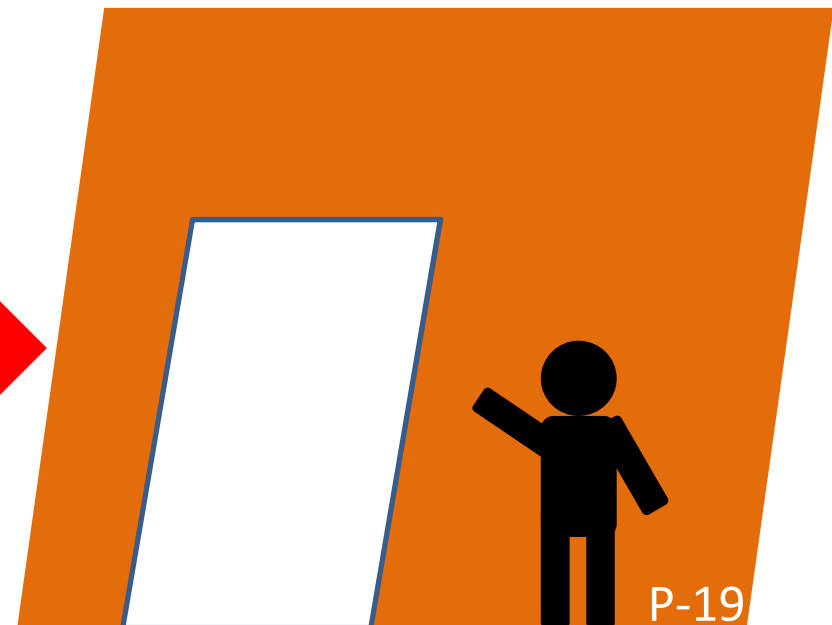
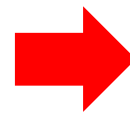
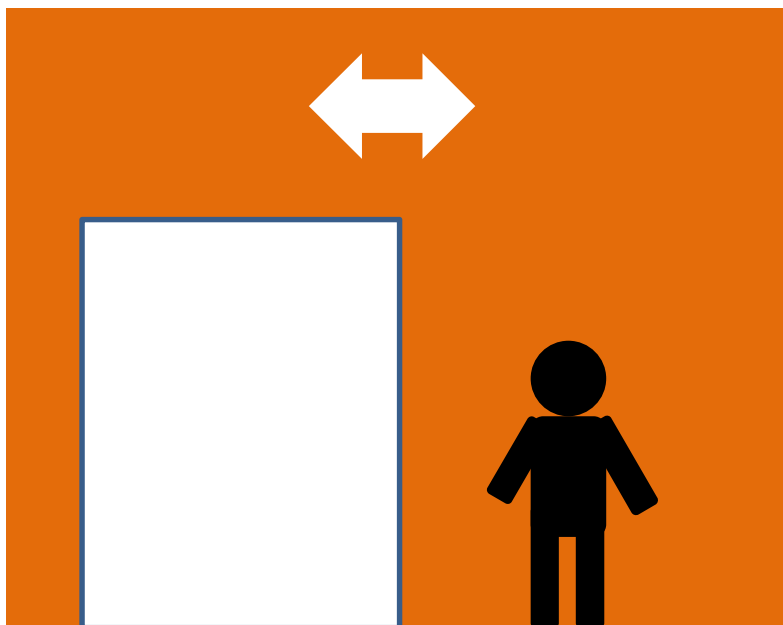


# 【保】傷害の防止「自然災害による傷害の防止」



ドアや窓がある壁は部屋の中で最も崩れやすい。

ドアや窓がない壁は、大きな面(壁)で天井を支えているので、強度は高い。





# 三角形の救命スポット

強度の高いソファやベッドなどの家具の真横には、壁や天井との間にできるスペース「三角形の救命スポット」ができるため、生存率が高い。





# 【保】傷害の防止「自然災害による傷害の防止」



「どのようにしたら自分の身を守ることができるか」

「問い」



「問う」

**学習課題**

地震による傷害から身を守りながら、安全に避難するには？

→ 次のケースでの行動の在り方を検討してみよう!

格技室で柔道の授業中に大地震発生

格技室・体育館の前の扉が開かない

生徒玄関から駐車場へ避難

ケーススタディを用いて、解決の方法を探究する活動

# 【保】傷害の防止「自然災害による傷害の防止」



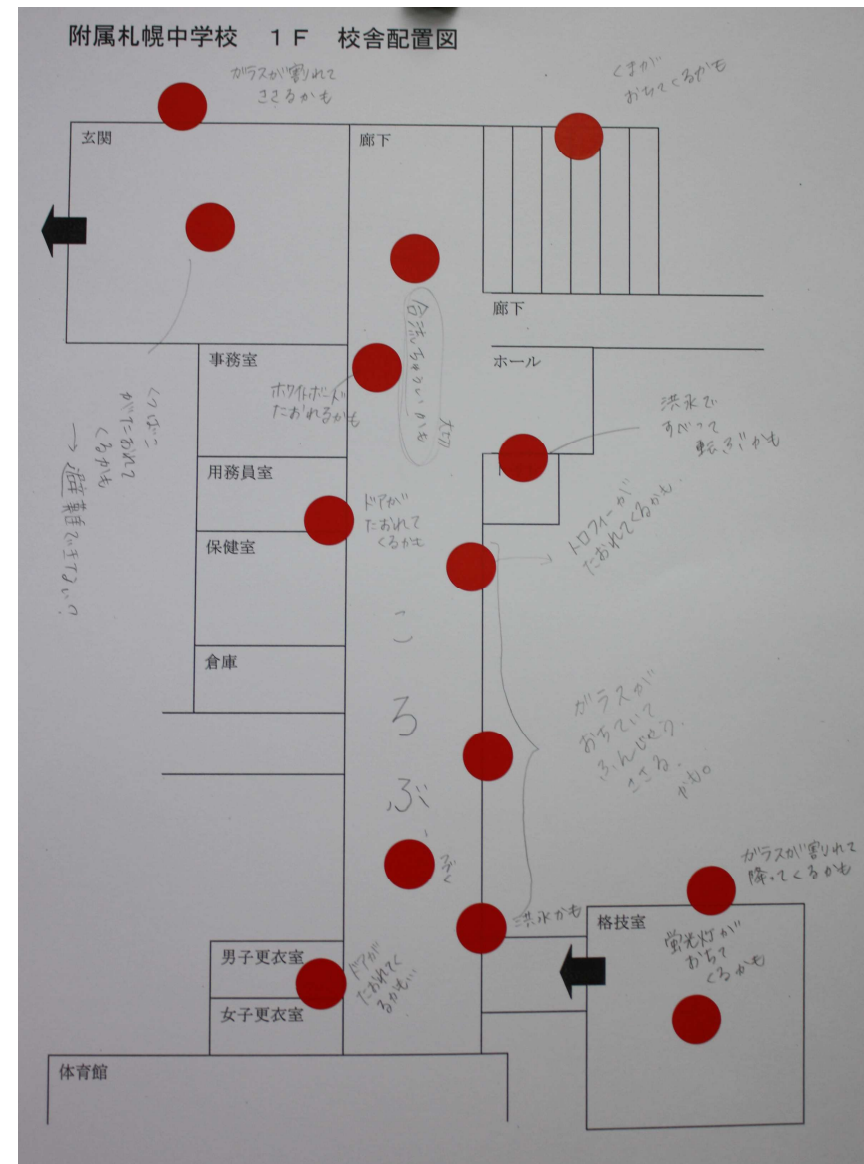
校内の地図を使用し、傷害の原因となりそうなものや、場所に印をつけながら、グループで討議



廊下の窓側ではなく、壁側を通ると安全という判断

落下や転倒する可能性のあるものを整理

冷静・迅速・安全に行動する方法を、「問い」を解決するための仮説の設定とした。



# 【保】傷害の防止「自然災害による傷害の防止」





# 【保】傷害の防止「自然災害による傷害の防止」



危ない所というのは、身の周り沢山あると分かった。実際に班で考えてみると「階」だけで、11ヶ所もありました。また、その危ない所から逃げる方法もその場で考えて行動、というのは難しいんじゃないかと思いました。だから、今回のように事前に被害を予想して、解決の方法を考えておくのが、大切だと思いました。その場その場での判断を冷静に

傷害の防止のために、傷害の原因や内容を想定することの必要性に関する記述

冷静な判断や行動の必要性に関する記述

地震によるけがから身を守りながら避難するには 避難経路を確認し、けがをしそうな所を確認しながら避難することが大事だと思います。その場その場でけがの原因を知ってから安全に避難することが大事だと思います。



# 体育分野



第2学年

武道・柔道 「相手の動きに応じた体落とし」

実践例②



## 指導内容

### 技能

- 相手の動きに応じた基本動作、基本となる技を用いて投げたり抑えたりし、攻防を展開できるようにすること

### 態度

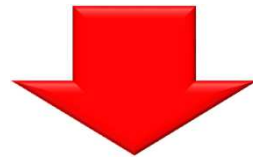
- 伝統的な行動を守り、相手を尊重し、分担した役割を果たし、安全に気を配ることができるようにすること

### 知識、思考・判断

- 技の名称や行い方を理解し、課題に応じた運動の取組み方を工夫できるようにすること



身に付けた知識や技能を活用して課題を解決し、  
思考力・判断力等高めるために・・・



■相手の動きに応じた投げ技を扱い、これまでに身に付けた八方崩しの知識や、抑え込みでの攻防の知識、体落としの技能を活用すること

■「受」の立場を捉えることで、崩したい方向の反対に力を加えることで、体勢を立て直す相手の動きを利用することができないかという仮説と検証

## 本時の目標

- 「取」は、重心を左足に移す「受」の動きに応じて、体落としに必要な動き（進退動作、崩しと体さばき）を工夫することができる

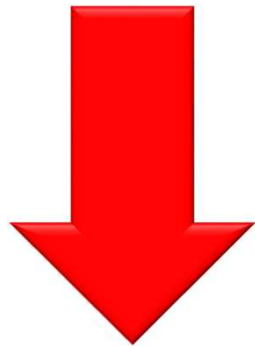




## 【体】武道・柔道 「相手の動きに応じた体落とし」



- 生徒は、これまでの投げ技において、基本となる技の習得のために、「取」は「受」の全面的な協力を得て技の精度を高めてきた。しかし、本時においては、「受」が初めて協力しない状態を経験する。



教師が「受」を、生徒が「取」を担当  
教師は「取」の動き（崩し）に協力せず、右足を  
後ろへ下げる

「条件や状況が変わる」ことであり、「問い」を生む手だてとなる。この状況から、生徒は、「左足に重心がある相手に技をかけるにはどうしたらよいか」という「問い」を生む

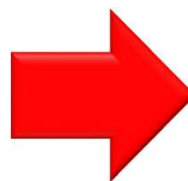
# 【体】武道・柔道 「相手の動きに応じた体落とし」



教師が「受」を、生徒が「取」を担当  
教師は「取」の動き（崩し）に協力せず、右足を後ろへ下げる



「受」が「取」の動き（崩し）に協力した  
場合の技のかけの瞬間



「左足に重心がある相手に技をかけるには  
どうしたらよいか」



「受」が「取」の動きに協力せず、  
「受」が右足を後ろへ下げた瞬間

# 【体】武道・柔道 「相手の動きに応じた体落とし」



解決に向けて

「問い」



「問う」



- 「問い」を解決するための自らの「仮説」の設定と「検証」を行う。
- 仮説とは、「左足に重心がある相手に技をかけるにはどうしたらよいか」という「問い」を解決するために、「取」として必要な動きを予想すること。



# 【体】武道・柔道 「相手の動きに応じた体落とし」



## 仮説の設定

「問い」の解決の方法を、複数を予想して記述する。大切な視点は、全員が一度、自分の考えを明確にすること。その後、予想した内容を、一つずつ仲間と確かめる。

### 生徒Aの仮説

問・右足に重心がかかかかしていない  
相手に体落としをかけるには?  
予想  
・逃げてい、右足を追いかけてかける。  
・前にひいて、重心を前に戻す。

### 生徒Bの仮説

・くすすす時に、少し強くひきつり  
右足を後ろにさげた瞬間でし  
まう様な体勢にされれば良い。

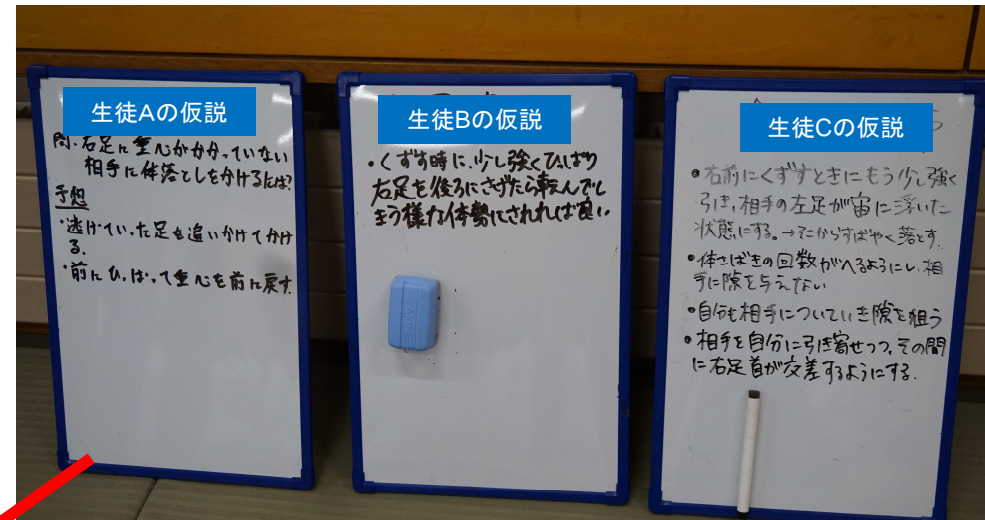
### 生徒Cの仮説

- ・右前にくすすす時にもう少し強く  
引く、相手の左足が宙に浮いた  
状態にする。→そこからすばやく落とす。
- ・体さばきの回数が増えるように、相  
手に隙を与えない
- ・自分も相手についていき隙を狙う
- ・相手を自分に引き寄せつつ、その間  
に右足首が交差するようにする。

# 【体】武道・柔道 「相手の動きに応じた体落とし」



解決するための仮説としてホワイトボードに記入したものは、振り返りの時間に、ワークシートへ転記。



2 本時の課題と、解決するための予想は

【学習課題】

相手に体落としを上手くかけるには、どうしたらよいだろうか？

【解決するための予想】

- 無理矢理、力ずくで引く。
- 相手の力を利用する
- もう一度かけ直す

# 【体】武道・柔道 「相手の動きに応じた体落とし」



仮説の検証

全体交流

再検証



検証の結果、有効であると判断した  
方法を仲間と共有する

自らの仮説を、仲間と協同的に確かめ、  
検証を続け、解決の方法を見出す





# 【体】武道・柔道 「相手の動きに応じた体落とし」



前回の体落としの技のポイントをおまえかおされた時にどうすれば良いかについて考えた。実際に試合でも活かせることだと思う。力任せにやるのではなく、逆に相手の力を利用するなど、頭を使う柔道をやりたい。

今回の授業を終えて相手の力を利用するほうがかけやすいいということがい  
わかった。また、相手の力を利用する際大切なことは相手の重心移動を読み  
技をかけることだと思う。口で言ってもまだまだ難しいと思った。これからは体でも  
表現できるようにしていきたいと思う。

相手を押す進退動作により、相手が体勢を立て直す動きを利用することの記述

体おとしで逃げられたら、どう対処すればいいのかというところで、いろいろ挑戦してみたが、一番おもしろいのが高かったのは、相手をおして、その反動で、お尻で足にげられるまえにかける。というものがいい方法を見つけた。



# 研究のまとめ



思考力・判断力等を育成するために・・・

「問い」を活かす授業を振り返って

成果と課題



## 思考力・判断力等を育成するには・・・

### 生徒自らが「問い」を生むこと

- 解決したいという強い思いや願いを想起する内面的なアプローチにより、自らの力で探究しようとする意欲を高めるとともに、運動の行い方のポイントを見付けたり、課題に応じた練習方法を選んだりするなどの思考力・判断力を育む原動力となる。
- 「問い」を生む手立て①「既成概念を検証する学び」、②「やりたい」の「できない」から状況や、③「条件や状況が変わる」と「できない」から「問い」を生む展開は、「問い」を生むことに機能し、思考・判断を進めるきっかけとすることができた。



※本時の目標や、単元や題材の特質に応じた必要感をもった「問い」が大前提である。



## 思考力・判断力等を育成するには・・・

「問い」を解決するために、  
他者に「問う」活動を設定すること

- 「問う」こと、いわゆる「仮説」を立てて他者と検証することは、複数の解決方法を検討し、その内容の妥当性を確かめたり、正確性を吟味したりするなどにより、課題の解決の方法を選び、具体的な方法を説明するという思考力・判断力等を育成することができる。
- 仮説を立て検証のため他者に問うためには、自己の考えをしっかりとつこと、いわゆる、自分の立ち位置を明確にすることが大切である。思考・判断に必要な「学習課題に応じた運動の取り組み方の工夫をしたり、解決の方法を見付けたり選んだりするなどして、それらを説明することができる姿」へとつなげるためには、「問い」を解決するための仮説の設定と、その検証が大切である。



## 生徒自らが「問い」を生むこと

- 「問い」を生む手立てが、どんな領域や単元においても可能なのか検討していく必要がある。生徒自らが「問い」を生むことができなければ、思考力・判断力を育む原動力とすることが難しい。

## 「問い」を解決するために、 他者に「問う」活動を設定すること

- 「問い」を解決するために、「仮説」を立てられない生徒、いわゆる、これまでに身に付けた知識や技能を活用できない生徒へのアプローチが必要である。「仮説の設定」（解決の方法を検討）のために生徒が選択できる内容や方法を示したり、これまでの学びと関連付けたりする場の設定などの手立てを講じていくことが、思考力・判断力等の育成に寄与できるものと考えられる。
- 仮説を立てるときには、十分な時間の確保が必要である。



## ①運動の行い方のポイント、課題を解決するための方法は、教え込みによっても身に付けることができる

- これまでに身に付けた知識や技能を活用し、思考力・判断力等を育成するには、じっくり探究する時間の確保
- 思考・判断する内容を、単元や題材の特質に応じて検討

## ②思考・判断する内容が重要。ただ考えることができればよいわけではない。

- 思考・判断すると関連して高めることができる「技能」「態度」「知識」の内容を検討
- 思考・判断に関する「目標」「内容」「指導方法」「評価規準」の一体化・系統化

# 札幌市の保健体育の取り組み



## 北海道教育大学附属札幌中学校 協同研究プロジェクト

助言者	大学	渡部 基 (道教大) 神林 勲 (道教大) 中島 寿宏 (道科学大) 中道 莉央 (道教大)	
	市教委	秀島 起也 (市教委) 大井 一雄 (市教委) 桑原 俊二 (市教委)	
	公立学校	石岡 直樹 (栄町中校長) 清水 修 (東月寒中校長) 渡辺 元 (山鼻小校長) 富川浩 (米里中教頭) 長谷川 仁 (東栄中教頭) 星野 正彦 (西岡北中教頭)	
検討会メンバー	分野	体育分野	保健分野
	事務局	◎熊谷 圭悟 (藻岩) 佐藤 克也 (新川)	◎鈴木 隆史 (手稲) 小林 大介 (南が丘) 木口 朋子 (美香保)
	中学校	◎伊東 芙美枝 (上野幌) ○佐藤 竜弥 (屯田中央) 片山 慎司 (向陵) 上總 向貴 (西陵) 川田 佑一 (栄南) 田澤 久幸 (栄町) 大巻 太一 (陵北) 豊岡 愛依 (北都) 伊藤 大輔 (中島) 成澤 希依 (札幌) 福富 淳平 (宮の丘)	◎秋川 まどか (あいの里東) ○津村 昌彦 (幌東) 佐藤 光 (開成高) 渡部 堅 (手稲) 網島 七恵 (八条) 木村 由久 (東月寒) 齋藤 研介 (西野) 遊佐 嘉寿美 (太平) 大川 潤 (向陵) 柴田 貴世 (東月寒) 三上 明博 (新川) 飯嶋 孝行 (札苗)
	小学校	道佛 智志 (もみじの森小)	岩田 悟 (附属札幌小)
	研究実践者	高橋 正年 (附属)	岡本 翔吾 (附属)



# 札幌市の保健体育の取り組み



大学・市教委・公立学校・附属学校が一体となつての研究



毎月1回～2回の学習案検討会

公立学校でのプレ授業の実践

延べ200名を超え授業参観

平成26年度 国立教育政策研究所  
教育課程研究指定校事業 研究協議会

2014

北海道教育大学附属札幌中学校

# 研究概要説明

